

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103087
法人名	株式会社菜の花
事業所名	グループホーム菜の花
所在地	香川県高松市飯田町104-1 (電話)087-881-0322

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年10月21日	評価決定日	平成21年12月2日

【情報提供票より】(平成21年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 5月 15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	12人 常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 1階建て
------	----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	30,000円+実費	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	65歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山下内科小児科医院 池田歯科医院 全人クリニック
---------	--------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所(平成16年5月15日)以来、運営理念と会社方針を当日の勤務者全員で唱えて、利用者中心の介護に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業者は、会社方針・運営理念を、毎朝全職員が復唱かつ実践している。今後、理念達成の為、目標達成計画を具体的な年度目標としてあげ、職員が取り組みを実践し管理者が評価することで今以上の質の向上がはかれることが期待される。また、運営推進会議を非常に重要と捉え、会議録から活かした取り組みがホーム内外で実践されている。

一方、利用者が引き起こす行動の原因を洗い出し、利用後の経過を分析して職員一同身体拘束をしないケアを取り組んでおり、ホーム環境面でも玄関をはじめ施設は一切しない方針である。なお、管理者が看護師である為、医師の指示で点滴等の医療行為が可能であり、ホーム自体も医療連携体制に関して、家族へ再々説明し同意を得ている。急性期・慢性期・終末期(看取り)まで、ホームで医師の指示のもと可能な医療行為を提供できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成16年5月15日の開所以来、理念をつくり現在に至っている。 会社方針・運営理念を毎朝、全職員が復唱かつ実践している。月1回の全体会議で、反省を含め意見交換をしている。	グループホーム開所以来の運営理念を全職員は毎朝復唱しており、「21世紀の大家族・わが家づくり」に向かって日々実践している。実践に対する成果確認として月1回の全体会議で、反省を含めた意見交換をしている。	グループホーム自体が平成20年度に地域密着型サービスに位置づけられているので、「地域」に対する考えを示し理念に位置づけてもらいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の「年会費3万円・その他」で、地域の一人として貢献している。運営推進会議で「活動評価・助言・要望」を伺い実践している。更に、家庭菜園・散歩・文化祭へ出展等で地域と交流している。	自治会に参加し、自治会費も納めており、地域住民の一人として貢献している。地域の自治会長等が出席する運営推進会議ではホームの活動評価を提示し、助言・要望をもらっている。更に、家庭菜園や散歩を通じて、また、文化祭への出展等で地域へ向けた交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしている。「運営推進会議」の席上・見学者・ボランティアの受入・火災時等避難誘導及びキャラバンメイトで出前「認知症サポーター」講座を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。「職員の名札装着」及び「下肢筋力低下防止等」の助言を頂きサービス向上に努めている。それは「運営推進会議」の議事録へ掲載している。	運営推進会議は2カ月に1度定期開催しており、その会議録の重要性を運営者・職員は認識して、会議録から活かした取り組みを実践している。成果として、職員の名札装着や下肢筋力低下防止等について助言をもらい、実現してサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。市地域包括支援センター主催の介護支援専門員情報交換会等で協力関係を築いている。	各地区の高松市地域包括支援センター主催である介護支援専門員情報交換会等で市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。門・玄関を含め「施錠等」一切していない。その状況は、同業者のグループホーム及び地域等の介護支援専門員から、身体拘束等をしないグループホームだと評価を受けている。	利用者が引き起こす行動の原因を初回評価で洗い出し、利用後の経過を分析して職員一同身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホーム環境面でも玄関をはじめ施錠は一切しない方針である。地域の同業者及び介護支援専門員からも評価を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「会社方針・運営理念」を理解し、自然に職員は防止に努めている。会社側も職員に対して「会社方針・運営理念」を実践して。「会社=職員」が対等であると意識付けをした結果、虐待の行為0件を更新中。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援をしている。過去に、成年後見制度の後見人(実子)が不適合との事で親族から依頼を受け、裁判所へ申立た結果、弁護士への変更が叶った実績がある。その都度、管理者や職員へ機会教育を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。特に「契約書・法改正等」その都度、説明時に各項目にわたり声を出し読み上げて、内容について理解を求めている。問題が起きてからでは、遅いので「主たる介護者」を含めて納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・面会時に意見等を聞き業務へ実践している。外部者へは、事業所見学等の機会に運営事項を説明又意見を拝聴し出来る処は、実践に反映させている。	運営推進会議・家族会・面会・家族便り送付時に家族等からの意見等を表出できる機会づくりをしており、そうした意見をホームに反映させている。また外部の方へは、事業所見学等の機会に運営事項を説明し、意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させてる。毎月一回、全体会議を開催して、会社方針・運営理念等について意見交換している。この一時間程度は「法定勤務の実動」を減らして、会議に充てている。	ユニット会議、全体会議を開催して、会社方針・運営理念等について職員間で意見交換をしている。身体拘束・感染対策・安全委員会もあり全体会議等に組み込まれている。また毎日職員からの意見は反映しているが、特にボーナスの時、管理者は職員一人ひとりと個別面談し職員意見を集約している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	努めている。職員個々に、入社時から「将来の目標」を持っている。その目標が実現出来る様に研修等は勤務時間を充当。更に、目標となる人材として看護師・介護支援専門員・介護福祉士・調理師または経営等の有資格者が機会教育をしてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。「内部・外部研修参加」は勤務時間内で確保。更に、8時間の勤務時間中、フリーの立場で、他の職員が利用者に対して「運営理念・会社方針」に沿っているか、否か 或は自分はどうか？の「自己研修制度」を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域で、同業者4社と取り組みをしている。特に介護事業は複雑多岐にわたっているため、交流は必要と感じ当初から実践している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。「認知症介護の基本」である事は全職員が理解している。その結果、評価項目(4)の実践に繋がっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。家庭等に出向き、状況把握及び当事業所へ納得されるまで見学して頂き、左記事項のとおり実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。左記事項のとおり実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。運営理念に基づき「我が家づくり」という「意識の醸成」を高めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主たる介護者=家族である。職員は意見・要望等を伺い専門的に支援し、関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を含め、家族から「本人が輝いていた時代背景」等を聞きだし、支援に努めている。	利用者が大切にしてきた時代経過等を利用者・家族から聞きだして分析し、現在の地域との関係性を加味した支援に努めている。利用前の地域の美容院へ行くなど、利用者に応じた関係継続をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	左記事項は「非常に時間を要する」が、各職員は意識して支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に入院された時でも、各職員が出向き声掛け等をした。亡くなって喪主挨拶で「感謝の言葉」を頂き、出焼香も「各界の方々」より、先に御参りさせて頂いた。今後も、おごる事無く「事務的+人情」及び「会社方針」等を実践していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	左記事項を「利用者中心の介護が基本」と位置付け実践している。職員が「自己中心的な介護を実践したら、厳しく「解雇=会社方針等で違反」の対象としている。これを、反省して「機会教育」等で是正されれば「解雇」の対象としない。	ホーム全体の指標として利用者中心の介護が基本と位置付け、職員は実践している。そのため職員には研修を受講してもらっている。また日々の利用者への声かけ、家族からの情報収集をもとに思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。左記事項を把握する事で、「日々和んだ生活」が出来ると、職員一同認識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記事項努めている。これが出来ているグループホームは、入所希望者が殺到し、利用者の行列が出来る。これは非常に難しいが、職員一同、認識して日々努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	左記事項は、基本であると全職員が認識し作成している。	利用者主体の課題と前向きな暮らしを反映したケアプランである。利用者の台帳は、フェイスシート・アセスメント・ケアプラン1.2.3・サービス担当者会議・支援経過・介護記録とある。しかし、モニタリングに関する総評となる帳票とケアプランに対する介護記録に至るまでの連動性が少し分かりづらかった。	ケアプランの2表の課題事項を介護記録に記載し、サービス担当者会議前にモニタリングの総評に記載するなど、全ての業務がP(計画)D(実施)C(検討)A(改善)サイクルに則った業務としての実践を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。左記事項は、基本であると全職員が認識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	左記事項に取り組む為には、人材が必要であり、「看護師・介護支援専門員・介護福祉士・調理師」の資格を持った職員が在籍し、まだ十分ではないが、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会へ加入し、「年会費3万円・その他」で、地域の一員として貢献している。運営推進会議で「活動評価・助言・要望」を伺い実践している。更に、家庭菜園・散歩・文化祭へ出展等で地域と交流もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援をしている。「内科・精神心療内科・歯科医」の往診は毎週。更に、医療効果を得ることが必要な状態の時は家族の意見を尊重して、設備が十分な医療機関へ通院等の配慮している。	内科・精神科・心療内科・歯科の往診は毎週実施している。更に、必要に応じて家族の意見を聞き、希望する医療機関へ通院等の配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	左記事項は、常勤看護師を配置しており介護職との連携は、非常に適時・的確に保たれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常勤看護師を配置している事で、家族・職員・病院関係者を含め、安心かつ非常に良い関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制に関する「同意書」を家族から頂き、急性期・慢性期・終末期=看取りまで、細部事項は、その時点々協議している。	管理者が看護師である為、医師の指示で点滴等の医療行為が可能であり、ホーム自体も医療連携体制に関して、家族へ再々説明し同意を得ている。急性期・慢性期・終末期(看取り)まで、ホームで医師の指示のもと可能な医療行為を提供できる。重度化に向けて、その時々職員間で協議している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各職員は常勤看護師の指導の下で、左記事項は機会ある度実践して身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている。平屋造りの当事業所は、左記事項を鑑み夜勤者2名を配置。北側隣接の住宅とは、火災時等について、避難誘導をお願いしている。今年度更に避難誘導口を増加した。消防署も賞賛している。	災害対策については。北側隣接の住宅と火災時等において避難誘導を依頼しており、今年度更に避難誘導口を増設した。また、マニュアルを作成し年2回程度の避難訓練を実施しており、運営推進会議に議題をあげ、地域の協力体制を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。入浴も一人が脱衣室から退室後、次の人が脱衣室へ入室。トイレ内にカーテンを備え付け、左記事項を考慮して実施している。食事時間もその人々に合わせ(当日の気分)で喫食して頂いている。	個人情報同意書で情報提供等の利用目的を明確し、プライバシーの確保に努めている。また、職員は利用者が自己決定しやすい言葉かけをしている。入浴は脱衣室を一人で利用できるよう、トイレ内はカーテンを備え付けるなどプライバシーに配慮した実践をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	左記事項も、認知症介護の基本で実施している。職員は、家庭で生活している雰囲気を意識して対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	左記事項も、「認知症介護の基本」と位置付け利用者を中心に実践している。職員は、使用者が家庭で生活している雰囲気を意識して支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	左記事項も、「認知症介護の基本」と位置付け利用者個々へ実践している。本人の意向を尊重し、時間をかけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	左記事項も、「認知症介護の基本」として実施している。職員は、利用者「献立・片付け」等についても話し合い、希望を聞いて、それに沿うように、家庭で生活している雰囲気を意識して対応をしている。	職員は、食事を買い物から調理・配膳・片付け等を一連の行為として考え、献立も利用者の希望・話し合いで決めている。食事中も、家庭で生活している雰囲気を意識して対応をしている。食事を認知症介護の重要な支援と認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常勤看護師指導の下で調理師と介護職が連携して、左記事項を実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の定期的な往診時に、職員は歯科衛生士の指導で口腔ケアの重要性等学習して、利用者個々に実施した、口腔ケアの状態を確認して不十分な箇所は職員が補っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、排泄の記録に基づき、左記事項は支援している。特に、職員は利用者の便秘の状態を把握して常勤看護師へ報告。その状態(医療行為)によっては、常勤看護師は必要な事項等を自ら実施している。	職員は利用者の排泄の状態を把握して常勤看護師へ報告し対応している。排泄・排便の機能を理解し、排泄チェック表を利用して排泄等パターンを記録、尿意のない利用者等もトイレへ誘導して排泄の自立に向けた支援をしている。可能な限りパンツにしており、必要に応じて夜間尿取りパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常勤看護師の指導の下で、食事担当職員及び介護職員は、左記事項を忠実に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所としては、曜日や時間帯を決めているが、利用者の方々の心理・健康状態及び排便を伴う失禁によっては「タイミング」に合せて支援している。食事と共に「入浴」も楽しみの一つと認識している	ホームとして入浴は曜日や時間帯を決めているが、利用者の希望や心理・健康状態等をふまえて入浴支援をしている。また、排便を伴う失禁については入浴している。夜の入浴は、利用者・職員の話し合いで足浴をし、全身が温まって就寝してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。特に、昼食後は休息を兼ねて実践している。車いすの利用者の方々を含めて安眠についても、個々に心理・健康状態に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員として、基本中の「基本」で左記事項と併せ「誤投薬」についても、常勤看護師から徹底的に指導を受けている。常勤看護師自ら「夜間の利用者の症状の変化」も確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品で「喫煙者」は入居を断っている。従って、利用者個々に気分転換が図られるよう、時間帯によってクラシック等のDVD鑑賞をしたり、喫食場所を考慮しながら少量飲酒する等機会を設けて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	左記事項と併せて、特に、家族が面会にきた時の利用者の「その状態」が、家族で介護していた時と「同じ状況」では無い様に支援している。季節の節目々の行事等は、地域の人々から情報聞いて家族へ声掛け、支援している。	日勤者が3人ということもあり、受持ち制で最低1カ月1回一人ひとりの外出支援の計画を立てている。現在は週数回は外出支援が出来ており、地域の神社等へ散歩したり、比較的交通量が少ない地域な為、頻繁に外出ができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、左記事項が出来る利用者は一人だけであるが、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、左記事項が出来る利用者は一人で、自由に電話・手紙等が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。「臭気」に関しては、設計の段階で考慮した。天窓開閉装置を設けている。	共用生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって混乱をまねくような環境になっておらず、空間が縦に長い為、圧迫感がなく、ゆったりとした生活が送れている。臭気に関しては、ホーム設計の段階で考慮され天窓の開閉装置が設けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。左記事項が出来る利用者は要介護「要支援1～要介護1～2程度」で入居基準が現在は「要支援2～要介護5」である。設問のとおり居場所づくりはしているし、これが出来る利用者個々には支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。利用者個々に使い慣れたベッド等好みを活かした居室で過して頂いている。	利用者一人ひとりが利用前の日常生活品を持参しており、使い慣れたベッド等好みを活かした居室で過している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。特に、廊下等から居室への段差をより「安全が確保」出来る様に配慮しているが、十分とは云えない。今後さらに工夫する。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成16年5月15日の開所以来、理念をつくり現在に至っている。 会社方針・運営理念を毎朝、全職員が復唱かつ実践している。月1回の全体会議で、反省含め意見交換をしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の「年会費3万円・その他」で、地域の一員として貢献してる。運営推進会議で「活動評価・助言・要望」を伺い実践している。更に、家庭菜園・散歩・文化祭へ出展等で地域と交流してる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしている。「運営推進会議」の席上・見学者・ボランティアの受入・火災時等避難誘導及びキャラバンメイトで出前「認知症サポーター」講座を呼び掛けている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。「職員の名札装着」及び「下肢筋力低下防止等」の助言を頂きサービス向上に努めている。それは「運営推進会議」の議事録へ掲載している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。市地域包括支援センター主催の介護支援専門員情報交換会等で協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。門・玄関を含め「施錠等」一切していない。その状況は、同業者のグループホーム及び地域等の介護支援専門員から、身体拘束等をしないグループホームだと評価を受けている。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「会社方針・運営理念」を理解し、自然に職員は防止に努めている。会社側も職員に対して「会社方針・運営理念」を実践している。「会社=職員」が対等であると意識付けをした結果、虐待の行為0件を更新中。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援をしている。過去に、成年後見制度の後見人(実子)が不適合との事で親族から依頼を受け、裁判所へ申立た結果、弁護士への変更が叶った実績がある。その都度、管理者や職員へ機会教育を実施している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。特に「契約書・法改正等」その都度、説明時に各項目にわたり声を出し読み上げて、内容について理解を求めている。問題が起きてからでは、遅いので「主たる介護者」を含めて納得をして頂いている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・面会時に意見等を聞き業務へ実践している。外部者へは、事業所見学等の機会に運営事項を説明又意見を拝聴し出来る処は、実践に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させてる。毎月一回、全体会議を開催して、会社方針・運営理念等について意見交換している。この一時間程度は「法定勤務の実動」を減らして、会議に充てている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。職員個々に、入社時から「将来の目標」を持っている。その目標が実現出来る様に研修等は勤務時間を充当。更に、目標となる人材として看護師・介護支援専門員・介護福祉士・調理師または経営等の有資格者が機会教育をしてる。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。「内部・外部研修参加」は勤務時間内で確保。更に、8時間の勤務時間中、フリーの立場で、他の職員が利用者に対して「運営理念・会社方針」に沿っているか、否か 或は自分はどうか？の「自己研修制度」を設けている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域で、同業者4社と取り組みをしている。特に介護事業は複雑多岐にわたっているため、交流は必要と感じ当初から実践している。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。「認知症介護の基本」である事は全職員が理解している。その結果、評価項目(4)の実践に繋がっている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。家庭等に出向き、状況把握及び当事業所へ納得されるまで見学して頂き、左記事項のとおり実施している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。左記事項のとおり実施している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。運営理念に基づき「我が家づくり」という「意識の醸成」を高めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主たる介護者=家族である。職員は意見・要望等を伺い専門的に支援し、関係を築いている。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を含め、家族から「本人が輝いていた時代背景」等を聞きだし、支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	左記事項は「非常に時間を要する」が、各職員は意識して支援に努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に入院された時でも、各職員が出向き声掛け等をした。亡くなって喪主挨拶で「感謝の言葉」を頂き、出焼香も「各界の方々」より、先に御参りさせて頂いた。今後、おごる事無く「事務的+人情」及び「会社方針」等を実践していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	左記事項を「利用者中心の介護が基本」と位置付け実践している。職員が「自己中心的」な介護を実践したら、厳しく「解雇=会社方針等で違反」の対象としている。これを、反省して「機会教育」等で是正されれば「解雇」の対象としない。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。左記事項を把握する事で、「日々和んだ生活」が出来ると、職員一同認識している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記事項努めている。これが出来ているグループホームは、入所希望者が殺到し、利用者の行列が出来る。これは非常に難しいが、職員一同、認識して日々努力している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	左記事項は、基本であると全職員が認識し作成している。

グループホーム菜の花(Ｂユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。左記事項は、基本であると全職員が認識している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	左記事項に取り組む為には、人材が必要であり、「看護師・介護支援専門員・介護福祉士・調理師」の資格を持った職員が在籍し、まだ十分ではないが、取り組んでいる。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会へ加入し、「年会費3万円・その他」で、地域の一員として貢献している。運営推進会議で「活動評価・助言・要望」を伺い実践している。更に、家庭菜園・散歩・文化祭へ出展等で地域と交流もしている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援をしている。「内科・精神心療内科・歯科医」の往診は毎週。更に、医療効果を得ることが必要な状態の時は家族の意見を尊重して、設備が十分な医療機関へ通院等の配慮している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	左記事項は、常勤看護師を配置しており介護職との連携は、非常に適時・的確に保たれている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常勤看護師を配置している事で、家族・職員・病院関係者を含め、安心かつ非常に良い関係が出来ている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制に関する「同意書」を家族から頂き、急性期・慢性期・終末期=看取りまで、細部事項は、その時点々協議している。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各職員は常勤看護師の指導の下で、左記事項は機会ある度に実践して身につけている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている。平屋造りの当事業所は、左記事項を鑑み夜勤者2名を配置。北側隣接の住宅とは、火災時等について、避難誘導をお願いしている。今年度更に避難誘導口を増加した。消防署も賞賛している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。入浴も一人が脱衣室から退室後、次の人が脱衣室へ入室。トイレ内にカーテンを備え付け、左記事項を考慮して実施している。食事時間もその人々に合わせ(当日の気分)で喫食して頂いている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	左記事項も、認知症介護の基本で実施している。職員は、家庭で生活している雰囲気を意識して対応をしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	左記事項も、「認知症介護の基本」と位置付け利用者を中心に実践している。職員は、使用者が家庭で生活している雰囲気を意識して支援をしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	左記事項も、「認知症介護の基本」と位置付け利用者個々へ実践している。本人の意向を尊重し、時間をかけて支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	左記事項も、「認知症介護の基本」として実施している。職員は、利用者と「献立・片付け」等についても話し合い、希望を聞いて、それに沿うように、家庭で生活している雰囲気を意識して対応をしている。

グループホーム菜の花(Ｂユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常勤看護師指導の下で調理師と介護職が連携して、左記事項を実践している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の定期的な往診時に、職員は歯科衛生士の指導で口腔ケアの重要性等学習して、利用者個々に実施した、口腔ケアの状態を確認して不十分な箇所は職員が補っている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、排泄の記録に基づき、左記事項は支援している。特に、職員は利用者の便秘の状態を把握して常勤看護師へ報告。その状態(医療行為)によっては、常勤看護師は必要な事項等を自ら実施している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常勤看護師の指導の下で、食事担当職員及び介護職員は、左記事項を忠実に取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所としては、曜日や時間帯を決めているが、利用者の方々の心理・健康状態及び排便を伴う失禁によっては「タイミング」に合わせて支援している。食事と共に「入浴」も楽しみの一つと認識している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。特に、昼食後は休息を兼ねて実践している。車いすの利用者の方々を含めて安眠についても、個々に心理・健康状態に応じて支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員として、基本中の「基本」で左記事項と併せ「誤投薬」についても、常勤看護師から徹底的に指導を受けている。常勤看護師自ら「夜間の利用者の症状の変化」も確認している。

グループホーム菜の花(Ｂユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品で「喫煙者」は入居を断っている。従って、利用者個々に気分転換が図られるよう、時間帯によってクラシック等のDVD鑑賞をしたり、喫食場所を考慮しながら少量飲酒する等機会を設けて支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	左記事項と併せて、特に、家族が面会に来た時の利用者の「その状態」が、家族で介護していた時と「同じ状況」では無い様に支援している。季節の節目々の行事等は、地域の人々から情報聞いて家族へ声掛け、支援している。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、左記事項が出来る利用者は一人だけであるが、支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、左記事項が出来る利用者は一人で、自由に電話・手紙等が出来るように支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。「臭気」に関しては、設計の段階で考慮した。天窓開閉装置を設けている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。左記事項が出来る利用者は要介護「要支援1～要介護1～2程度」で入居基準が現在は「要支援2～要介護5」である。設問のとおり居場所づくりはしているし、これが出来る利用者個々には支援している。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。利用者個々に使い慣れたベッド等好みを活かした居室で過して頂いている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。特に、廊下等から居室への段差をより「安全が確保」出来る様に配慮しているが、十分とは云えない。今後さらに工夫する。